

荅北町の文学の
宝をめぐる旅



天草れいほく文学散歩



「天草は旅人を詩人にするらしい。」 司馬遼太郎「街道をゆく17」より

高橋喜惣勝
林芙美子
吉井勇
平野万里
木下杢太郎
北原白秋
与謝野寛
勝海舟
頼山陽

吉本隆明
森敦
菊田一夫
獅子文六
上林暁
与謝野晶子
夏目漱石
宗不旱

苓北町が登場する作品

長崎からの通航が盛んだった頃、風光明媚で、城下町の賑わいや風情もあった苓北町（富岡）には、数多くの文人や映画人が訪れており、その作品の中に登場します。（下記は一部を抜粋）

- | | |
|-------------|---------|
| 「南の風」 | 原作・獅子文六 |
| 「サンダカン八番娼館」 | 原作・山崎朋子 |
| 「花咲く港」 | 原作・菊田一夫 |
| （木下啓介初監督作品） | |
| 「うず潮」 | 原作・林芙美子 |
| （NHK朝ドラ第四作） | |
-
- | | |
|--------------------------|---------|
| 「五足の靴」 | 著・五人づれ |
| 与謝野寛・北原白秋・吉井勇・平野万里・木下杢太郎 | |
| 「歌集天草灘」 | 著・高橋喜惣勝 |
| 「天草灘」 | 著・林芙美子 |
| 「天草土産」 | 著・上林暁 |
| 「天草巡礼」 | 著・新村出 |
| 「天草紀行・天草灘」 | 著・小川国夫 |
| 「街道をゆく17」 | 著・司馬遼太郎 |
| 「王国その4」 | 著・吉本ばなな |

ドラマ・映画

書籍

れいほくまち 苓北町の歩き方

正直に言います。

このパンフレットに掲載された文学の宝たち（漢詩、散文、俳句、など）のほとんどは苓北町富岡が天草の中心地として栄えていた頃（またはその前後）に作られました。

今（令和7年現在）の町には、観光で来訪された方が楽しむおしゃやかなカフェやお土産店、飲食店はほぼ皆無です。

ただ、自慢は絶景の海、空、風です。（特に夕日がおすすめ）

古の文豪たちの足跡を想像しながら苓北の町を歩いてあなたの心の中にある「言葉」を見つけて下さい。

当時天草に名高いものは
富岡疲弊に本渡の愉快♪



苓北町の富岡は、江戸時代から明治6年本渡（町山口村）に天草支庁が移るまで、天草の政治・経済・文化の中心地でした。

苓北町富岡周辺地図



苓北町の先端にある富岡は、鉤爪のような半島の形状が天然の堤防となっており、古くから良港として発展してきました。

苓北町への交通アクセス

- 鉄道(JR三角駅から)**
車で1時間30分
- 船舶(苓北観光汽船)**
長崎：茂木 - 富岡(4便/日)：45分
- 航空(天草エアライン)**
福岡空港→天草 (3便/日)：約35分
大阪→熊本→天草(1便/日)：約120分
- シャトルバス**
天草空港→本渡バスセンター(4往復8便/日)：約14分

※本渡バスセンターからは九州産交路線バス、レンタカーなどをご利用ください

苓北町





「泊天草洋」
賴山陽

雲耶山耶吳耶越
水天髻鬚青一髮
万里泊舟天草洋
煙橫篷窓日漸沒
瞥見大魚波間跳
太白当船明似月

Rai Sanyou 『Amakusanada ni haku』

向こうに見えるのは雲であろうか、山であろうか、
それとも対岸中国大陸の吳の地か、越の地でもあろうか。それらしきものが見える。
水と空とが、さながら青い髪の毛を張ったように、一線を画して連なっている。
はるばる京都から万里もあるこの天草洋に来て今宵船どまりをすれば、
おりから夕霧が静かに小舟の窓をこめて、太陽はしだいに西の海に沈んでゆく。
突然、大きな魚が波間に跳ねるのを見た。
見上げる空には、早くも宵の明星が輝いており、
船の正面に当たって、まるで月のように明るく見えた。

出典：『新釈漢文大系45 日本漢詩 上』より

賴山陽が天草灘の船上で書いたとされる「泊天草洋」は詩吟の歌詞としても有名で、聖地である苓北町ではこの詩を吟ずる全国大会が数年前まで開催されていました。

文学
こぼれ
話

「泊天草洋（あまくさなだにはくす）」は1818年、儒学者である賴山陽が長崎県茂木から対岸の富岡を目指す船の中で詠んだ詩とされています。賴山陽公園の中央には、富岡西海岸の巨大な自然石を使って建てられたこの詩の碑があり、碑文の字は山陽の真筆を元に刻まれています。詩碑の建立は山陽逝去百年の1932年で、命日である同年10月16日に除幕式が行われました。



所在地：熊本県天草郡苓北町富岡
時間：常時開放

賴山陽公園

ペーロン



Peeron /dragon boat
(long 22-person canoe used for racing)races with such boats



Scenery of Tomioka

文学こぼれ話

宗不早（そうふかん）は、熊本を代表する明治時代の歌人。漂白の歌人と呼ばれる彼が人生で初めて（当時十八歳）詠んだのが富岡の海岸でのこの歌（左）でした。

富岡の町の裏なる浜の石

擦れて鳴るなり春の夜の石

宗 不早

波静かなる富岡港に上陸した。細長い小半島の終点に富岡城の跡がある、細長い町を挟んで西は外海の波が荒て居る、東は偽の様に平な内海である。

「五足の靴」

話の序にピヤアロンの事が出た。美しく飾られた幾艘の船が更に幾艘の小舟の声援の下に行ふ支那流のレガッタであるさうな、普通五月の節句にやるのだといふ。

「五足の靴」



場所：富岡港周辺、袋湾一帯
時期：毎年7月下旬頃に開催

茶北真夏の恒例「茶北じゃつと祭」は、例年2日にわたって行われ、1日目には出店や露店が立ち並び、花火大会を行います。2日目には「天草茶北ペーロン大会」が開催され、伝統行事であるペーロンの白熱したレースが繰り広げられます。ペーロンは約350年前に長崎から伝えられた競漕で、太鼓や銅鑼のリズムに合わせてオールを漕ぎます。祭りの名前の由来は、「そうだ」「本当だ」という意味の方言「じゃつと」です。将来に向かって地域住民こぞって「そうだ（じゃつとさい）、一丸となって突き進もう」という願いが込められています。

茶北じゃつと祭



白岩崎

西海岸の奥にある白い岩は白磁の原料でもある天草陶石です。

文学こぼれ話

日本海軍指揮官
勝麟太郎

勝海舟は長崎海軍伝習所に5年間在籍しました。在任中に2度富岡を訪問し、2度とも鎮道寺へ宿泊しました。1857年1度目の来訪時、まだ伝習生だったにもかかわらず「日本海軍指揮官 勝麟太郎」（右は自筆の写し）という落書きを残しています。伝習船に乗船し、同行した14名の中には五代友厚と榎本武揚がいました。翌年再び来訪した際には歌（左記）を残しました。当時の来島の様子が指揮官であったオランダ人カッテンディーケの著書「長崎海軍伝習所の日々」に書かれています。



There is a bronze statue of Katsu Kaisyu in Tomioka castle

蒸気の御船にのりて再びここ旅に寝せしかば、
たのまれぬ世をば経れども契りあらば
ふたたびここに月を見るかな

勝義邦（勝海舟）

鎮道寺



幕末から明治にかけて活躍した勝海舟は、鎮道寺を2度にわたって訪れ、本堂の柱に落書きをしました。境内にはその落書きの文字を彫った石塔も設置しており、当時の勝海舟の気持ちに触れることができます。

※経年により実物はほとんど読めません

場 所： 荅北町富岡2452
電 話： 0969-35-0045（鎮道寺） ※見学は要事前予約
料 金： 無料 駐車場： 5 台

富岡城



肥前唐津藩の寺沢志摩守広高によって慶長7年（1602年）頃に富岡城が築られました。寛永14年（1637年）「島原・天草一揆」で、富岡城は幕府側の拠点として一揆勢から攻撃を受けました。必死の守りで落城を免れたことが、一揆の早期終結と後の徳川幕府の安定をもたらしたといわれています。毎年10月下旬富岡城お城まつりが開催されます。

場 所： 荅北町富岡字本丸2245-15 （熊本県富岡ビジターセンター）
営業時間： 午前9時～午後5時 ※最終入館は午後4時45分まで
休館日： 水曜日（祝日の場合は翌日） 料 金： 無料 駐車場： あり

殉教の地に根をおろしかくのごと
古りにけるかもこの塚の松

宗 不旱

われは思ふ、末世の邪宗、
切支丹でうすの魔法。
黒船の加比丹を、
紅毛の不可思議国を、
色赤きびいどろを、
白ひ鋭ときあんじやべいいる、
南蛮の棧留縞さんとめじまを、
はた、
阿刺吉あらしき、珍侘の酒を。

「邪宗門」北原白秋

Kitahara Hakusyu 『jashumon』

Sou Fukan



富岡城に関する歴史や、島原・天草一揆の解説などを展示。

場 所：熊本県天草郡苓北町富岡2245-11
(富岡城敷地内)
駐車場：有
休館日：木曜日
(祝・休日の場合はその翌平日)
営業時間：午前9時～午後5時
※最終入館は午後4時30分まで
料 金：大人(高校生以上)：100円
小人(中学生以下)：無料

苓北町歴史資料館

1637年、島原・天草一揆で討ち死にしたキリシタン一揆勢の1万あまりの首を三分して葬られた内の一つがこの首塚です。一揆から10年後の1647年、時の代官であった鈴木重成の手によって供養碑が建てられ霊を慰めたと言われ、別名「千人塚」と呼ばれています。

名 称：国指定史跡「富岡吉利支丹供養碑」
場 所：熊本県天草郡苓北町富岡3595
見学可能時間：常時開放 駐車場：有(無料)



富岡吉利支丹供養碑

暮らし

働いて芋がゆする暮らしして
失ひたくなきもの
正しさに生きる努力ともう一つ

「生活の歌」高橋喜惣勝



写真中央・下 昭和30年代の富岡

文学こぼれ話

高橋喜惣勝（たかはしきそかつ）は明治時代に苓北町富岡に生まれた作家、歌人。昭和19年に発表の『技術史』で芥川賞候補となりました。貧しい当時の天草の暮らしを多くの文章に残しています。富岡の漁港近くに記念碑あり。



土瘦せたる天草の島は稲を作るに適せぬ、
山の半腹の余裕なきに余裕を求めて甘藷を植ゑる。
島民は三食とも甘藷を食ふ。

「五足の靴」

天草は、山が海岸に迫り平地が少ないため、米の生産量が少ない地域でした。そのため主食代わりにサツマイモ（天草では「からいも」と呼ぶ）を使った様々な郷土料理が残っています。

がね揚げ

天草地域で、仏事に魚が使えないのでその代わりにさつまいもを太めの拍子切りにして菜種油で揚げ、精進料理として「がね揚げ」を使ったのがはじまりといわれています。天草の方言で「がね」とはカニのことで、揚げた姿がカニの足に見えることから名付けられました。

出典：農林水産省
うちの郷土料理 熊本県 がね揚げ

せんだご汁

「せん」というのは、漢字で「洗」と表され、すりつぶしたさつまいもやじゃがいもを洗ってでんぷんを作ることから、いものでんぷんのことです。熊本の郷土料理として有名な「だご汁」ですが、天草地方ではさつまいもを使った「せんだご汁」という料理が作られていました。

出典：全国学校栄養士協議会
熊本県 郷土食 せんだご汁

「天草灘」 林芙美子

富岡へは四時一寸前に着いた。
小雨が降っていた。
港とも云えないやうな、小さい、
波止場に木造の郵便局風な汽船の
発着所があった。



波止場から左に折れて、
私は若い男の差しかけてくれる傘に
はいつて歩いた。
「旅館は遠いの？」
「はい、六百米ほどあります」
「岡野屋さんは古い宿屋さんなの？」
「明治初年からやってをります」



Hayashi Fumiko 『Amakusa nada』

岡野屋



場所：熊本県天草郡苓北町富岡2836
玄関前に記念碑があります。
※現在は営業していません

岬のとつさきには、
九州帝大の臨海研究所の白い建物があり、
面白いことに、お稲荷さんとなりあはせ。
赤い鳥居が山の奥まで續いてゐる。

「天草まで」 林芙美子



現在も残る
富岡稲荷神社の鳥居
富岡城へ続く歩道で
もあります

文学こぼれ話

林芙美子は長崎での講演会に出席した後、屋久島へ取材旅行へ向かう途中に天草へ来訪しました。小説の舞台となった岡野屋を去る時には、また家族と来ると話していたものの翌年に急死。記念碑の題字は当初、川端康成に依頼していましたが、病気がつたため交流のあった女流作家、壺井栄によって書かれました。



写真は
川端康成と
林芙美子

富岡へ移動する前に長崎にて撮影されたもの

Hayashi Fumiko 『Amakusa made』

あなたの心に浮かんだ言葉を自由に書き残してください



天草高来の民こそは
耶蘇の外法を伝えぬれ。
港に入れる、やあら、いよ
勇魚追ひ越しみやびをば、
さみどりの胸いとかたき
無花果島の少女らに、
ああら切支丹伴天連の
恋の秘法ぞ伝えぬる。

「あまくさ」 木下李太郎

散策地図 苓北町富岡

一般社団法人天草れいほく観光協会

観光案内所 / 8:45~16:45
 〒863-2502
 熊本県天草郡苓北町上津深江4535番地1
 TEL 0969-31-1136

注：★では歴史的事実を示してあり、現在確認できる碑などはありません



与謝野晶子
 与謝野鉄幹、娘とともに天草旅行



夏目漱石
 五校教員時代修学旅行にて旧富岡小学校に宿泊

吉本ばなの著書「王国その4」に志岐八幡宮が登場



★志岐八幡宮



五足の靴一行
 一行が宿泊した松本久太郎別宅

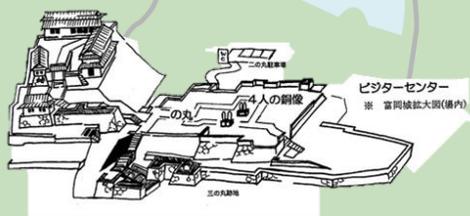


林芙美子
 旧岡野屋 (林芙美子記念碑)

★苓北町歴史資料館

アダム荒川殉教公園

★富岡ビジターセンター



★五足の靴上陸地点

旧大手門

富岡稲荷神社

●百間土手石垣

●旧三文字屋

袋池

●大手門と堀切

●瑞林寺

●富岡神社

★鎮道寺



勝海舟

●富岡海水浴場



頼山陽

★頼山陽公園

★高橋喜惣勝文学碑

●富岡漁港



高橋喜惣勝

★富岡吉利支丹供養碑 (千人塚)

●天草拓心高等学校
 マリン校舎

★白岩崎



宗不早

企画・編集・制作 / ドットワークス

※このパンフレットは令和6年度熊本県夢チャレンジ事業で作成しました